

## 前立腺癌患者においてホルモン療法併用薬として効果が期待される分子標的治療薬の網羅的検索

宮田康好、丸田 大、金武 洋

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座腎泌尿器病態学

前立腺癌に対してホルモン療法は有効な治療法の 1 つであるが、その抗腫瘍効果に限界があるのも事実である。そこで、ホルモン療法を受けて摘出された前立腺癌組織と、同療法を受けずに摘出された前立腺癌組織において、各種の細胞増殖や浸潤に関連する蛋白の発現を比較検討し、ホルモン療法と併用することで治療効果の増強が期待される標的を同定することを目的として検討を行った。対象は各群それぞれ 50 名とし、各種蛋白の発現は免疫組織学的に検討した。血管新生、アポトーシス、matrix metalloproteinase family などを比較検討したところ、抗 CD34 抗体で同定された腫瘍内血管の内径がホルモン療法施行群で有意に小さいこと、しかし、microvessel density には有意差はないことがわかった。また、アポトーシスの主要な regulator であるカスパーゼ 3 はホルモン療法施行群で有意に発現が増加したにもかかわらず、同じく重要な働きをするカスパーゼ 9 の発現には有意差がないことがわかった。以上から、ホルモン療法に血管新生抑制やアポトーシス亢進を標的とした治療を併用することで、その抗腫瘍効果を高められる可能性が考えられた。現在、さらに詳細な制御分子の特定を進めている。